



「人が集い 賑わいと 笑顔が広がり 未来につながるまち」へ 新得町



新得町基礎データ

総人口	6,112人 (H30. 8月末時点)	農業産出額	9,910百万円 (平成29年度)
老人人口	2,229人 ()	製造品出荷額等	3,621百万円 (H26工業統計より)
老人化率 (65歳以上)	36.5% ()	卸・小売年間販売額	10,035百万円 (H26商業統計より)
世帯数	3,298世帯 ()	一般会計規模	7,258百万円 (H30年度当初)
人口密度	5.74人/km ² ()	町の花	エゾムラサキツツジ
面積	1,063.83km ² ()	町の木	エゾヤマザクラ
		町の鳥	エゾライチョウ

新得町の紹介

新得町は、北海道のほぼ中央、十勝平野の最北西部に位置し、東大雪の山々と日高山脈に抱かれた中山間地域で、その行政区域は東西30.76km、南北62.29km、総面積は1,063.83km²を有しております。総面積の約90%は森林地帯という雄大な自然に恵まれた町で、北部一帯が総面積の約70%を占める大雪山国立公園の国有林となっており、南部は十勝川流域の屈足地域、佐幌川流域の新得地域、その中間台地の上佐幌地域に分かれています。

古くから豊富な林業資源を活かした産業を主として発展してきました。平成7年には、トドマツの間伐材を有効利用したツーバイフォー工法住宅に使用する構造用部材の製作を行う専用工場も建設されており、また、カラマツ製材品の開発も行われ、地域材として付加価値の高い部材を製造するとともに、森林の健全な育成と地域経済と環境に貢献しています。

また、鉄道の町としても歴史がある町で、明治40年に「狩勝トンネル」が開通し、以降豆類や雑穀、木材等の輸送により発展してき

ました。昭和56年には石勝線が開通し、新得駅は根室本線と石勝線の分岐点として、道東と道央を結ぶ鉄道の要所となっており、現在もJRの特急全便が停車し、重心地に位置することから道内各地へのアクセスに優れております。

大正4年に人舞外1ヵ村から屈足村として分村し、大正12年に新得村と改称、昭和8年に町制を施行し、平成25年に町制施行80年、平成31年には開拓120年を迎えます。

「しんとく新そば祭り」

新得町では、明治末期の開拓当初からそばの栽培が始まり、冷涼で昼夜の寒暖差が大きい気候により、風味豊かで良質なそばを生産してきております。

平成14年からは「日本一そばの美味しい町」を自負して、毎年9月の最終日曜日に「しんとく新そば祭り」を開催しており、昨年は16回目の祭りに約2万人もの来場者にお越しいただき、大変盛大に開催することができました。

今年は、北海道命名150年の節目を迎える

にあたり、先人より受け継いだそばを次の世代へつなぎ、その魅力を道内外に発信し、新たなそばの価値を創造するため、9月29日と30日の2日間、第17回しんとく新そば祭りと併せて、「北海道そば祭り」を開催いたしました。

天候にも恵まれ、町内外のプロ・アマのそば打ち名人が一堂に会し、自慢の腕をふるった「採れたて」「挽きたて」「打ちたて」「茹でたて」の香り高い新そばを、多くの来場者が舌鼓を打ちました。



しんとく新そば祭り

福祉のまち

誰もが健康で安心して家族で生活できるまちを目指し、聴覚障がい者の授産施設や全国で2番目に建設された聴覚障がい者専用の老人ホームなど、町内には数多くの福祉施設があるほか、施設内で作られている木工製品やクラフトは、お土産や町内公共施設に設置されており、人気を博しております。

平成26年4月からは、「ろう者と共に生きる」町づくりを推進するため、手話の理解と広がりをもって地域で支え合う住みよい町にすることを目的に、町村では全国初となる「手話に関する基本条例」を制定しました。町民主体の手話グループの活動も活発であり、町全体で福祉活動が積極的に展開されております。

町役場の朝と就業時間の終了時には、全職

員が手話にてあいさつすることが通例となってきました。また、町内各小学校の授業においても手話を取り入れた授業を実施しております。



小学校での手話授業の様子

台風災害からの復興

平成28年8月31日、北海道に相次いで上陸した台風の影響による大雨によって、町道など公共施設等の被害は327箇所に及び、被害額は約24億円となる甚大な被害でありました。最も深刻だったのは、新得・屈足の両市街地と、農村地区の一部に水を供給している浄水場の取水口と水道管が損壊し、18日間断水が継続しました。

また、多くの川が増水・氾濫し、地盤が削られ、家が流されたほか、床下・床上浸水となったところでは、家のまわりに流木や泥が溜まり家から出られない、物置の道具が泥まみれで使用不可能になったなど、様々な被害がでました。

特に高齢者の方にとっての「水が欲しいけど、重くて運べない」、「給水所まで行く手段がない」という問題に支援の手を差し伸べたのは、町内会やボランティアの方々でした。

一部の家では地下水を引いており、「水が出るので入浴や洗濯、給水に使用してください」と声をかけてくれる人もいました。

災害発生から1週間後の9月7日ボランティアセンターが設置され、被災した方々か

らの要望を聞き、そこに登録されたボランティアの人たちを派遣しました。主な仕事は、被害家屋での泥出しや家財運び、内部清掃などで、ボランティア活動には延べ676人の方々が参加していただきました。

今回の災害を通じ、地域の防災でまず必要なのは、住民一人ひとりが防災意識を高めて、自分の身は自分で守る「自助」、次に住民同士で助け合う「共助」、これに消防や警察、自衛隊、行政など公の助け「公助」がかみ合って防災力は向上することを痛感しました。

一番身近な地域の組織である町内会単位での活動が一般的ですが、日頃の町内会活動とともに防災活動や災害時に必要な行動を「家族単位」「町内会単位」「行政単位」で把握しておくことが重要です。



災害直後のパンケシントク川に架かるJR鉄橋



復旧したJR鉄橋

秘湯 トムラウシ温泉

新得市街からおよそ58km、道道忠別清水線

をとおり約1時間15分、右方はるか深い渓谷の辺りに、湯煙を立ち昇らせ、東大雪の自然をしたって訪れる人々のオアシス、「国民宿舍トムラウシ温泉東大雪荘」が見えてきます。

原生林に覆われた周囲の自然と調和した秘境の温泉にふさわしい建物をもとに、ログハウス風な外観を採用し平成5年12月より現在の建物で営業しております。湯温の異なる内湯と秘湯情緒あふれる露天風呂。平成27年からは源泉掛け流しへ変更し、良質なナトリウム塩化物・炭酸水素塩泉で、血行改善や美肌効果への湯力があります。

日本百名山的一座トムラウシ山の玄関口であり、周辺の森にはエゾシカやキタキツネはもちろんエゾクロテンやエゾリス、様々な野鳥たちが暮らしており、林野庁より「日本美しいの森」に選ばれた自然休養林、原始の姿の山と渓谷。東大雪荘周辺には自然の恵みに溢れています。ぜひ、お越しください。



トムラウシ温泉東大雪荘 外観



源泉かけ流しの露天風呂